

市場の不確実性が高まる局面で、 改めて注目されるリスク・パリティ戦略

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

昨年以降、Brexit(英国のEU離脱選択)や米大統領選挙でのトランプ氏の勝利など、予想外の出来事をきっかけに、世界的に金融市場の不確実性が大きく高まる局面がみられます。そのような中、分散投資の一種である「リスク・パリティ戦略」という投資手法が今、改めて注目を集めています。

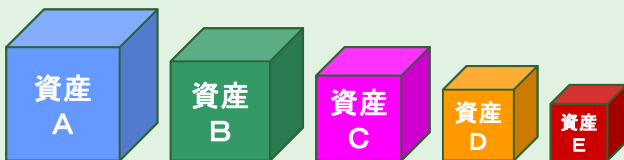
リスク・パリティ戦略とは、組み入れる資産ごとの価格変動(リスク)によるポートフォリオへの影響度が均等(パリティ)になるよう資産配分比率を調整することにより、ポートフォリオ全体の価格変動リスクを抑制する運用手法のことで、その投資成果は特定の資産の影響を受けにくくなることが期待されます。特に、価格変動が高まった2008年のリーマン・ショック以降、安定運用を基本とする年金基金などの間で広く採用されるようになりました。具体的には、組み入れ資産の値動きの傾向などを踏まえ、価格変動が相対的に大きい資産の組み入れを少なくし、価格変動が相対的に小さい資産の組み入れを多くすることで、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク配分が等しくなるよう調整します。

一方、各資産へ等金額投資を行ない資産配分を均等にする、最もシンプルな分散投資の場合、株式など相対的に価格変動の大きい(リスク水準の高い)資産ほどポートフォリオに占めるリスク配分が高くなるため、ポートフォリオのパフォーマンスにも大きな影響を与えることになります。その結果、金融危機時など、市場の変動が高まった時には、ポートフォリオの値動きは、思いのほか大きくなることもあります。

リスク・パリティ戦略は、価格変動の小さい資産の比率が高くなる点などから、資産配分を均等にしたポートフォリオと比較して、価格変動が抑制される傾向にあり、短期的には大きな収益を狙いにくくなります。その反面、大きな損失を抑制することが期待されることから、安定的な資産形成をめざす投資家にとって、有効な手法と考えられます。

リスク配分均等(リスク・パリティ)のイメージ

資産配分

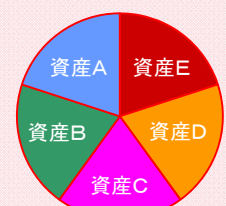


リスクの小さい資産を多く保有 リスクの大きい資産は少なく保有

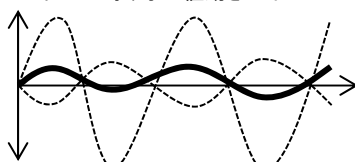
小 ← 各資産のリスク水準 → 大

リスク配分

リスク配分を均等にすることで、リスク水準が高い資産の価格変動の影響を受けにくくなる。

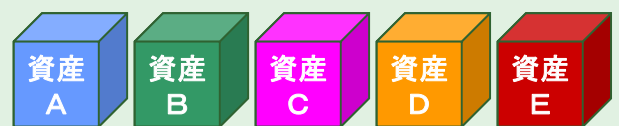


リスク・パリティの場合の
ポートフォリオの値動きのイメージ



資産配分均等のイメージ

資産配分

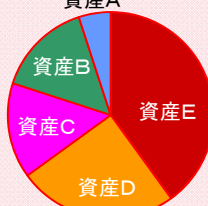


リスクの大きさに関わらず、均等に保有

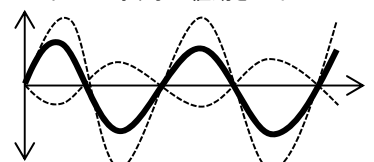
小 ← 各資産のリスク水準 → 大

リスク配分

リスク水準が高い資産の価格変動の影響を受けやすくなる。



均等分散した場合の
ポートフォリオの値動きのイメージ



※各資産のイラストはイメージです。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。